

神戸新開地 喜楽館



落語を通じて、明るい社会に！ 世界を平和に！SDGsの実現に向けて

「神戸新開地・喜楽館の誕生と、上方落語を通じてSDGsを学ぶ」

かつては「東の浅草、西の新開地」と謳われていた歓楽街の新開地に、2018年7月11日に上方落語協会・兵庫県・神戸市・新開地まちづくりNPOの4者が、神戸のまちの活性化と伝統芸能の振興を共に願い、上方落語の定席「神戸新開地・喜楽館」が誕生しました。落語を通じて、社会を明るく公平に、人の平等、世界を平和にできることを、笑って喜楽館で学び、体感していただきます。

当企画の狙い

コロナ禍で人との交流が途絶えたり、ロシアとウクライナの紛争など、最近では明るい話題が少ない中、落語を気軽に聞いていただき、笑い、和んでほしい。若者にも上方落語の魅力を知っていただき、またSDGs落語を通じて、環境や平和について考えていただく機会を作りたいと思います。

①上方落語の歴史と裏側を知る

上方落語は、大阪や京都を中心とする関西で主に演じられる落語の総称。本格的な演芸場の舞台や裏方の役回り、落語の道具などを紹介。江戸時代から続く上方落語の歴史や、伝統芸能について、説明を聞きます。

②SDGs落語を鑑賞（笑福亭 鶴笑師匠または笑福亭 学光師匠）

●笑福亭 鶴笑師匠が、SDGsパペット落語を提供します。手作りパペット(人形)で、若者にもわかりやすいテーマで落語が鑑賞できます。また「国境なき芸能団」を立ち上げ、笑顔を届ける活動を通じて国際貢献にも取り組まれています。公演実績は、世界35カ国・100都市以上にのぼります。アフガニスタンのカブールの病院や難民キャンプに笑いとお救援物資を届けたり、独自の世界平和活動もしています。

●笑福亭 学光師匠は、銀行員から笑福亭鶴光に弟子入り、落語家になった異色派です。「お笑い福祉士」という資格を制定し介護施設等で活動するボランティアの方の養成にも力をいれています。また、落語会のほか、人権、平和、家族、国際等のテーマで講演会活動を行っています。「我が家の環境大作戦」と題し、面白く楽しい「環境落語」も演じています。

③SDGsの学習、自助・共助の探究とバックヤードツアー

特別に館内の一部をご見学いただけます。ステージ前での記念写真も撮影可能です。また、SDGs落語を聞いたうえでグループワークも可能です。（*時間帯、予約状況により可能）



プログラムスケジュール例

- 10:00～ 上方落語とは
上方落語の歴史についての説明
- 10:30～ 笑福亭鶴笑の「笑いで世の中、世界を幸せにする考え方」や「SDGs落語」を鑑賞
または 笑福亭学光の「福祉活動」や「環境落語」を鑑賞
- 11:15～ 生徒からの質疑応答
- 11:30～ バックヤードツアー
- 12:00頃 終了

実施場所：神戸新開地・喜楽館
実施時間：10：00～12：00（要相談）

* 鶴笑師匠または学光師匠の予約を確定する為、
3カ月以上前のお問い合わせをお願いします。

所要時間：約2時間（貸切対応）
実施可能人員：80名～180名程度
（日程により調整が必要）
実施費用：3,000円/人（*人数により要相談）

12. 神戸新開地・喜楽館



学習のポイント

- ①落語といった伝統芸能について触れてみる
- ②SDGs落語を聞いて、自分ごととして考える
- ③笑うこと、平和についてグループで話し合う



学習の流れ（モデル）

